

新規上場申請のための四半期報告書

(第24期第2四半期)

自 2021年1月1日

至 2021年3月31日

株式会社コラントッテ

表 紙

| | |
|--|----|
| 第一部 企業情報 | 1 |
| 第1 企業の概況 | 1 |
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 事業の内容 | 2 |
| 第2 事業の状況 | 3 |
| 1 事業等のリスク | 3 |
| 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 3 |
| 3 経営上の重要な契約等 | 4 |
| 第3 提出会社の状況 | 5 |
| 1 株式等の状況 | 5 |
| (1) 株式の総数等 | 5 |
| (2) 新株予約権等の状況 | 5 |
| (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 5 |
| (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 | 5 |
| (5) 大株主の状況 | 6 |
| (6) 議決権の状況 | 6 |
| 2 役員の状況 | 7 |
| 第4 経理の状況 | 8 |
| 1 四半期財務諸表 | 9 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 9 |
| (2) 四半期損益計算書 | 10 |
| 第2 四半期累計期間 | 10 |
| (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 | 11 |
| 2 その他 | 13 |
| 第二部 提出会社の保証会社等の情報 | 14 |

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 【提出書類】 | 新規上場申請のための四半期報告書 |
| 【提出先】 | 株式会社東京証券取引所 代表取締役社長 山道 裕己 殿 |
| 【提出日】 | 2021年 6月 4日 |
| 【四半期会計期間】 | 第24期第2四半期（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社コラントッテ |
| 【英訳名】 | Colan Totte. Co., Ltd. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 小松 克巳 |
| 【本店の所在の場所】 | 大阪市中央区南船場二丁目10番26号 |
| 【電話番号】 | 06-6258-7350 (代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役管理統括本部長 森田 仁 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 大阪市中央区南船場二丁目10番26号 |
| 【電話番号】 | 06-6258-7350 (代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役管理統括本部長 森田 仁 |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第24期 第2四半期累計期間 | 第23期 |
|----------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 会計期間 | 自 2020年10月1日 至 2021年3月31日 | 自 2019年10月1日 至 2020年9月30日 |
| 売上高 (千円) | 1,723,819 | 2,886,212 |
| 経常利益 (千円) | 398,854 | 490,610 |
| 四半期(当期)純利益 (千円) | 269,111 | 324,810 |
| 持分法を適用した場合の投資利益 (千円) | — | — |
| 資本金 (千円) | 10,000 | 10,000 |
| 発行済株式総数 (株) | 8,000,000 | 40,000 |
| 純資産額 (千円) | 1,155,145 | 886,033 |
| 総資産額 (千円) | 2,571,317 | 2,323,447 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 33.64 | 40.60 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | — | — |
| 1株当たり配当額 (円) | — | — |
| 自己資本比率 (%) | 44.9 | 38.1 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー (千円) | 216,998 | 378,765 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー (千円) | △23,474 | △59,485 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー (千円) | △167,799 | △236,522 |
| 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円) | 521,462 | 495,325 |

| 回次 | 第24期 第2四半期会計期間 |
|-----------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 2021年1月1日 至 2021年3月31日 |
| 1株当たり四半期純利益 (円) | 11.83 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、第23期第2四半期累計期間について四半期財務諸表を作成していないため、第23期第2四半期累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
4. 当社は、2021年2月19日開催の取締役会決議に基づき、2021年2月19日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。第23期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。
5. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
6. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。

7. 1株当たり配当額については、配当を実施していないため、記載しておりません。
8. 第24期第2四半期会計期間及び第2四半期累計期間の四半期財務諸表並びに第23期事業年度の財務諸表については、株式会社東京証券取引所の「有価証券上場規程」第211条第6項の規定に基づき、有限責任あづさ監査法人による四半期レビュー及び監査を受けております。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または新規上場申請のための有価証券報告書（Iの部）に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、当社は、前第2四半期累計期間については、四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

(1) 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は1,727,208千円となり、前事業年度末と比較して245,164千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が25,398千円、受取手形及び売掛金が82,759千円、電子記録債権が44,081千円、製品が52,972千円、仕掛品が11,966千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は844,109千円となり、前事業年度末と比較して2,705千円増加いたしました。これは主に無形固定資産が12,970千円減少した一方、投資その他の資産が17,336千円増加したことによるものであります。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の資産合計は2,571,317千円となり、前事業年度末と比較して247,869千円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は1,065,819千円となり、前事業年度末と比較して68,243千円増加いたしました。これは主に、買掛金が29,234千円、短期借入金が50,000千円、1年内返済予定の長期借入金が27,508千円、それぞれ減少した一方で、電子記録債務が100,979千円、未払法人税等が68,753千円、それぞれ増加したことによるものであります。

固定負債は350,352千円となり、前事業年度末と比較して89,485千円減少いたしました。これは主に社債が17,500千円、長期借入金が71,000千円、それぞれ減少したことによるものであります。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の負債合計は1,416,172千円となり、前事業年度末と比較して21,242千円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産合計は1,155,145千円となり、前事業年度末に比べ269,111千円増加いたしました。

これは、四半期純利益の計上により利益剰余金が269,111千円増加したことによるものであります。

(2) 経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により経済活動が制限されるなか、経済対策として「Go To キャンペーン」などが行われましたが、2021年1月には一部地域で緊急事態宣言が再発出されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社の営んでいる事業につきましても、外出自粛による消費活動の鈍化、入国制限によるインバウンド購買の消滅、更に当社の強いスポーツ市場における活動制限など厳しい状況で推移いたしました。

このような経営環境の中、「本気の笑顔の実現」という経営理念のもと、社会的課題である「生活の質」=QOL (Quality Of Life) の向上に貢献するための事業を展開し、社会的価値と同時に企業価値の向上に取り組んでおります。

当第2四半期累計期間におきましては、新製品の積極的な市場投入に取り組み、売上の増加に大きく貢献いたしました。また、販促活動として、新聞、雑誌、SNSなどの媒体を活用し新製品の紹介やマーケティング活動の強化に取組みました。

このような全社での経営強化策の下、ホールセール部門につきましては、国内卸販売は引き続き重要取引先に対して様々な施策を行うキー・アカウント・マネジメント（重要取引先管理）による販売強化に努めました。また、「巣ごもり消費」現象でインターネットやテレビ、ラジオ等の通販取引との取引が好調に推移いたしました。海外卸販売は、主要取引先国の政情不安やコロナ禍の影響による市場の冷え込みが依然続いており厳しい結果となりました。一方、2021年1月に中国のTmallに出店して越境ECを開始いたしましたが、好調なスタートとなりました。その結果、売上高は1,356,367千円となりました。

リテール部門につきましては、2020年10月に新静岡セノバ店（静岡市葵区）を新規出店、2020年11月に大丸心斎橋店（大阪市中央区）がリニューアルオープンいたしましたが、緊急事態宣言発出の影響により来店客数が大幅に減少し、売上高は144,161千円となりました。

イーコマース部門につきましては、マーケティング活動の効果により認知度が向上したことや新製品の販売が好調に推移したことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛状況によって生まれた「巣ごもり消費」現象及び12月のギフト需要と宇野昌磨限定モデルの発売により、大幅に訪問客数とCV率（コンバージョン率の略で、サイトの最終目標であるコンバージョン（成約）の数を訪問数で割ったもの）が伸びたことで、売上高は223,290千円となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の再拡大による影響があったものの、1,723,819千円となりました。利益面につきましては、以前より強化してきたイーコマース部門が好調に推移し、原価率の改善に大きく貢献したこと及び業務の効率化や徹底したコスト削減を図った結果、営業利益は405,008千円、経常利益は398,854千円、四半期純利益は269,111千円となりました。

なお、当社は、コラントッテ事業とCSS事業を営んでおりますが、コラントッテ事業以外のセグメントは重要性が乏しく、コラントッテ事業の単一セグメントとみなせるため、セグメント別の記載を省略しております。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べて26,137千円増加し、521,462千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は216,998千円となりました。これは主に税引前四半期純利益398,110千円、減価償却費31,811千円、返品調整引当金の増加額26,205千円、仕入債務の増加額70,080千円があったものの、売上債権の増加額126,841千円、たな卸資産の増加額65,080千円、法人税等の支払額76,713千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は23,474千円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出19,224千円、差入保証金の差入による支出3,366千円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は167,799千円となりました。これは短期借入金の純減少額50,000千円、長期借入金の返済による支出98,508千円、社債の償還による支出17,500千円等があったことによるものであります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

新規上場申請のための有価証券報告書（Iの部）に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発活動は、主として新製品の企画・開発であり、研究開発の成果としては、「コラントッテ ネックレス LUCE α」等の製品化及び「コラントッテ レスノ Pro-Aid Socks (for Run)」等の販売開始であります。

当第2四半期累計期間の研究開発費は9,311千円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数（株） |
|------|-------------|
| 普通株式 | 32,000,000 |
| 計 | 32,000,000 |

② 【発行済株式】

| 種類 | 第2四半期会計期間末現在発行数（株） (2021年3月31日) | 提出日現在発行数（株） (2021年6月4日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|----------------------------|------------------------------------|---|
| 普通株式 | 8,000,000 | 8,000,000 | 非上場 | 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。 |
| 計 | 8,000,000 | 8,000,000 | — | — |

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総数増減額 (株) | 発行済株式総数残高（株） | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額 (千円) | 資本準備金残 高（千円） |
|---------------|-------------------|--------------|----------------|---------------|----------------------|-----------------|
| 2021年2月19日（注） | 7,960,000 | 8,000,000 | — | 10,000 | — | — |

(注) 株式分割（1：200）によるものであります。

(5) 【大株主の状況】

2021年3月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (株) | 発行済株式（自己 株式を除く。）の 総数に対する所有 株式数の割合 (%) |
|--------------|----------------------|--------------|---|
| 株式会社アーク・クエスト | 大阪市住吉区墨江3-13-12-301号 | 3,200,000 | 40.0 |
| 小松 克巳 | 大阪市住吉区 | 3,200,000 | 40.0 |
| 小松 由美子 | 大阪市住吉区 | 800,000 | 10.0 |
| 和田 百子 | 堺市北区 | 800,000 | 10.0 |
| 計 | — | 8,000,000 | 100.0 |

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2021年3月31日現在

| 区分 | 株式数（株） | 議決権の数（個） | 内容 |
|----------------|----------------|----------|---|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式（自己株式等） | — | — | — |
| 議決権制限株式（その他） | — | — | — |
| 完全議決権株式（自己株式等） | — | — | — |
| 完全議決権株式（その他） | 普通株式 8,000,000 | 80,000 | 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。 |
| 単元未満株式 | — | — | — |
| 発行済株式総数 | 8,000,000 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 80,000 | — |

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

前事業年度に係る定時株主総会終了後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数(千株) | 就任年月日 |
|-----------------------|-------|------------------|---|-----|-----------|----------------|
| 取締役 開発・製造 統括本部長 | 六藤 広平 | 1962年 11月27日生 | 1986年4月 株式会社ワールド 入社 1995年12月 株式会社ヴァイ 入社 2004年4月 株式会社ミズワン 入社 2005年11月 株式会社アイ・フェージョン・ インターナショナル 入社 2011年9月 株式会社バークス 入社 2012年6月 当社 入社 2014年4月 当社 開発・製造部長 2018年11月 当社 開発・製造統括本部長 2021年2月 当社 取締役開発・製造統括本 部長 (現任) | (注) | — | 2021年 2月19日 |

(注) 取締役の任期は、2021年2月19日開催の臨時株主総会終結のときから選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでであります。

(2) 退任役員

該当事項はありません。

(3) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性7名 女性2名 (役員のうち女性の比率22.2%)

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、株式会社東京証券取引所の「有価証券上場規程」第211条第6項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2021年1月1日から2021年3月31日まで）及び第2四半期累計期間（2020年10月1日から2021年3月31日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

4. 最初に提出する四半期報告書の記載上の特例

当新規上場申請のための四半期報告書は、「企業内容等開示ガイドライン24の4の7－6」の規定に準じて前年同四半期との対比は行っておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2020年9月30日) | 当第2四半期会計期間 (2021年3月31日) |
|-----------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 507,336 | 532,734 |
| 受取手形及び売掛金 | 360,759 | 443,519 |
| 電子記録債権 | 122,316 | 166,397 |
| 製品 | 306,502 | 359,475 |
| 仕掛品 | 87,424 | 99,390 |
| 原材料及び貯蔵品 | 76,092 | 76,233 |
| その他 | 21,758 | 49,578 |
| 貸倒引当金 | △145 | △121 |
| 流動資産合計 | 1,482,044 | 1,727,208 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物（純額） | 350,279 | 356,239 |
| 土地 | 265,821 | 265,821 |
| その他（純額） | 43,077 | 35,457 |
| 有形固定資産合計 | 659,177 | 657,517 |
| 無形固定資産 | 92,757 | 79,786 |
| 投資その他の資産 | 89,467 | 106,804 |
| 固定資産合計 | 841,403 | 844,109 |
| 資産合計 | 2,323,447 | 2,571,317 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 電子記録債務 | — | 100,979 |
| 買掛金 | 145,769 | 116,535 |
| 短期借入金 | ※1 250,000 | ※1 200,000 |
| 1年内償還予定の社債 | 35,000 | 35,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 183,670 | 156,162 |
| 未払法人税等 | 76,713 | 145,466 |
| 賞与引当金 | 31,861 | 35,720 |
| 製品保証引当金 | 2,227 | 3,532 |
| 返品調整引当金 | 90,236 | 116,441 |
| その他 | 182,099 | 155,981 |
| 流動負債合計 | 997,576 | 1,065,819 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 202,500 | 185,000 |
| 長期借入金 | 232,124 | 161,124 |
| リース債務 | 5,213 | 4,228 |
| 固定負債合計 | 439,837 | 350,352 |
| 負債合計 | 1,437,414 | 1,416,172 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 10,000 | 10,000 |
| 利益剰余金 | 876,033 | 1,145,145 |
| 株主資本合計 | 886,033 | 1,155,145 |
| 純資産合計 | 886,033 | 1,155,145 |
| 負債純資産合計 | 2,323,447 | 2,571,317 |

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

| 当第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日) | |
|--|-----------|
| 売上高 | 1,723,819 |
| 売上原価 | 604,651 |
| 売上総利益 | 1,119,168 |
| 販売費及び一般管理費 | ※ 714,160 |
| 営業利益 | 405,008 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息 | 0 |
| 助成金収入 | 429 |
| 為替差益 | 413 |
| その他 | 164 |
| 営業外収益合計 | 1,007 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 1,737 |
| 売上割引 | 2,520 |
| 支払手数料 | 2,500 |
| その他 | 404 |
| 営業外費用合計 | 7,162 |
| 経常利益 | 398,854 |
| 特別損失 | |
| 固定資産除却損 | 743 |
| 特別損失合計 | 743 |
| 税引前四半期純利益 | 398,110 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 145,466 |
| 法人税等調整額 | △16,467 |
| 法人税等合計 | 128,998 |
| 四半期純利益 | 269,111 |

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期累計期間
 (自 2020年10月1日
 至 2021年3月31日)

| | |
|---------------------|-----------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | |
| 税引前四半期純利益 | 398,110 |
| 減価償却費 | 31,811 |
| 貸倒引当金の増減額（△は減少） | △23 |
| 賞与引当金の増減額（△は減少） | 3,858 |
| 製品保証引当金の増減額（△は減少） | 1,305 |
| 返品調整引当金の増減額（△は減少） | 26,205 |
| 受取利息 | △0 |
| 支払利息 | 1,737 |
| 為替差損益（△は益） | △413 |
| 売上債権の増減額（△は増加） | △126,841 |
| たな卸資産の増減額（△は増加） | △65,080 |
| 仕入債務の増減額（△は減少） | 70,080 |
| その他 | △46,773 |
| 小計 | 293,975 |
| 利息の受取額 | 0 |
| 利息の支払額 | △1,739 |
| 助成金の受取額 | 429 |
| 法人税等の支払額 | △76,713 |
| 法人税等の還付額 | 1,044 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 216,998 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △19,224 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △137 |
| 差入保証金の差入による支出 | △3,366 |
| その他 | △746 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △23,474 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 短期借入金の純増減額（△は減少） | △50,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △98,508 |
| 社債の償還による支出 | △17,500 |
| リース債務の返済による支出 | △1,791 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △167,799 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 413 |
| 現金及び現金同等物の増減額（△は減少） | 26,137 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 495,325 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | ※ 521,462 |

【注記事項】

(追加情報)

新規上場申請のための有価証券報告書（Iの部）の（追加情報）に記載した会計上の見積りを行う上で新型コロナウィルス感染症の影響の考え方についての重要な変更はありません。

(四半期貸借対照表関係)

※1. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引金融機関3行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約における当座貸越契約及び貸出コミットメントにかかる借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (2020年9月30日) | 当第2四半期会計期間 (2021年3月31日) |
|--------------------|-----------------------|----------------------------|
| 当座貸越極度額及び貸出コミットメント | | |
| の総額 | 800,000千円 | 800,000千円 |
| 借入実行残高 | 250,000 | 200,000 |
| 差引額 | 550,000千円 | 600,000千円 |

2. 財務制限条項

上記コミットメント契約については、次のとおり財務制限条項が付されております。

なお、当第2四半期会計期間末におけるコミットメントラインによる借入残高はありません。

2021年9月期決算以降の決算期を初回の決算期とする連続2期について、各年度の決算期における単体の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにすること。

(四半期損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | 当第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日) |
|----------|--|
| 給料及び手当 | 164,418千円 |
| 賞与引当金繰入額 | 28,886 |

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

| | 当第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日) |
|------------------|--|
| 現金及び預金勘定 | 532,734千円 |
| 預入期間が3か月を超える定期預金 | △12,010 |
| 預け金 | 739 |
| 現金及び現金同等物 | 521,462千円 |

(株主資本等関係)

当第2四半期累計期間（自 2020年10月1日 至 2021年3月31日）

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間（自 2020年10月1日 至 2021年3月31日）

当社は、コラントッテ事業とCSS事業を営んでおりますが、コラントッテ事業以外のセグメントは重要性が乏しく、コラントッテ事業の単一セグメントとみなせるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | |
|---|--|
| | 当第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日) |
| 1株当たり四半期純利益 | 33円64銭 |
| (算定上の基礎) | |
| 四半期純利益（千円） | 269,111 |
| 普通株主に帰属しない金額（千円） | — |
| 普通株式に係る四半期純利益（千円） | 269,111 |
| 普通株式の期中平均株式数（株） | 8,000,000 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要 | — |

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんでしたので記載しておりません。

2. 当社は、2021年2月19日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年5月27日

株式会社コラントッテ
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務 執行社員

公認会計士

西田 順一



指定有限責任社員
業務 執行社員

公認会計士

不^レ田 直樹



監査人の結論

当監査法人は、株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程第211条第6項の規定に基づき、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に準じて、「経理の状況」に掲げられている株式会社コラントッテの2020年10月1日から2021年9月30日までの第24期事業年度の第2四半期会計期間（2021年1月1日から2021年3月31日まで）及び第2四半期累計期間（2020年10月1日から2021年3月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社コラントッテの2021年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 繼続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上